

謹賀新年

本年もよろしくお願い申し上げます

東伊豆町長 太田長八

新年あけましておめでとう
ございます。

町民の皆様には、新たな抱
負と決意を胸に、新年を健や
かにお迎えになられたことと
お慶び申し上げます。

昨年、年号が平成から令和
に変わり、今年から真の令和
の時代の幕開けです。令和の
時代が平和であることを祈る
とともに、「みんなが安心して
くらせる町・笑顔があふれる
町」を更に推進していき、東
伊豆町に住んでよかった、住
みたいと思うまちづくりを協
働して行いたいと思っておりますので、ご支援とご協力を
よろしくお願いいたします。

本年予定事業といたしまし
て、当町も加盟している「全
国草原の里・市町村連絡協議
会」が2年ごとに開催してい
る、全国草原サミット・シン
ポジウムを、9月27日・28日
の両日、稲取細野高原を拠点
に開催いたします。これを機
会に当町の魅力を全国に発信
するとともに、細野高原や高
原内の湿原の保全と活用を推
進し、地域活性化を図ってい

きたいと考えております。

次に防災についてですが、
地震のみならず、昨今は気候
変動により豪雨・台風等の災
害も各地で発生しています。
常日頃からハザード・マップ
を確認して、地震の時は「揺
れたらすぐ逃げる」を実践し、
豪雨・台風等の時は自分自身
のいる場所を確認し、「自らの
命は自ら守る」を実践してい
ただきたいと思っております。行政
として公助は出来得る限りの
ことはいたしますが、限界が
ありますので「自助・共助」
をよろしくお願いいたします。

また、防災の情報を得るため
に、多くの町民の皆様が町の
情報配信メールに登録すると
ともに、スマートフォンア
プリ「コスモキャスト」(定時の
町の広報も聞くことが出来ま
す)をインストールしていた
だくよう願っています。
また、新年度から3か年、自
己負担がありますが長期間に
わたる停電に備え、ポータブ
ル発電機の購入に対する補助
制度の創設も考えております。
次にイベント「雛フェス」

についてですが、今年も商工

会青年部と地域おこし協力隊
を卒業して立ち上げたNPO
法人ローカル・デザイン・ネッ
トワークが協働して行います。
2月29日・3月1日の両日は、
稲取のメインストリートを歩
行者天国とし、通りに面した
空き店舗の活用・出店等様々
な企画をしております。この
企画には、彼らと連携してい
る大学生(静岡大学・芝浦工
業大学)も参加しています。

これから東伊豆町を牽引して
いく彼らが企画したイベント
を、ぜひ見ていただき、そし
て彼らにエールを送って欲し
いと思っております。若者たちが、
この町の将来を考え活動する
ことは大変素晴らしいことで
ありますので、町も支援して
まいりたいと考えております。
また、雛のつるし飾りまっ
り中に来町してくれたお客様
に対してアンケート調査を行っ
た結果、20代女性の当町に対
する認知度が低いという結果
が出ました。そこで、町に興
味を持ち、地域の課題解決に
関わってもらえる地域外の人々

とのネットワークを拡げる、

いわゆる関係人口を増やすた
め、四女子大学(駒沢・共立・
昭和・跡見学園)と連携協定
を締結し、町の認知度向上に
向け町の情報を発信していた
だき、学生の皆さんに人口減少・
少子高齢化等、地方の現状を
知ってもらう取り組みをして
おります。

また、道路整備につきまし
ては、災害時の緊急輸送路に
もなり、国道135号の渋滞
緩和にも大きな期待が持てる
大川地区と伊東市の中大見八
幡野線を結ぶ新設道路等につ
いて、引き続き国・県に対し
要望活動を行ってまいります。
結びに、東伊豆町の益々の
発展と町民の皆様のご健勝と
ご多幸をご祈念申し上げます
て、新年の挨拶といたします。



'20わたしの夢・抱負

観光立町を目指して

「伊豆の出身」に誇りを持って



定居 康夫 さん
稲取 (昭和23年生)

新年明けましておめでと
うございます。
昨年は令和元年、新元号
になり、日本にとっては上
皇も健在の中、新天皇のも
と新しい時代が始まり目出
度い限りです。
私の携わる観光は、平和
産業です。国が安定し安全
安心こそ観光が成り立ち、
そして風光明媚、人的な要
素として優しい親切、これ
らが融合して感動が生まれ、
観光客に癒し安らぎを与え
この産業は成り立ちます。

昨今様々な企業で人が居
ないと聞きますが、はたし
てそうでしょうか。人材が
居ないのでしょうか、或い
は「人財」でしょうか。私
の将来の希望は人材も「人
財」も必要です。田舎には
希望があり夢があります。
何故ならまだまだ開発され
ていないからです。首都圏
では人材はただ働く材料で
しか有りません。しかしな
がら田舎では人材、人が財
産になるかもしれません。
東京では再開発が進んでお
りますが、超近代的な町づ
くりではなく、田舎には田
舎なりの町づくりがあるは
ずです。何も無い田舎です
から考え発展させることは
山ほどあります。ネガティ
ブな発想ではなくポジティ
ブ的な考えで前に進めば少
しずつよくなるはずで

とにかくやってみようが
私の生きかたです。年を取っ
ても若くてもあきらめない
で前進あるのみです。
観光業の素晴らしいこと
はお客様が帰るときに「お
世話になりました有難う」
と言われることです。商売
でお客様からお礼を言われ
るのは、この観光業でしか
ありえない言葉です。そう
旅館の営業は物売りではな
いからです。旅行の話で皆
にこやかにあります。
今や物作りも大事ですが
今後の日本は観光が主流に
なってくるはずで。政府
も外国観光客4千万人を目
指しております。
様々な人材を育て、言葉
だけではなくすばらしい観
光立町を目指したいもので
す。



石井 ちか子 さん
奈良本 (昭和47年生)

新年あけましておめでと
うございます。
早いもので4回目の年女、
後2年で生まれてから半世
紀です。まだまだ若手のつ
もりでおりましたが、職場
でも後輩の方が多くなって
しまいました。
現在、県の職員として働
いていますが、県庁の中で
は賀茂(伊豆)は「飛ばされ
て来る所」という扱いをさ
れます。しかし、仕事や旅
行で県外に出かけると、「静
岡」よりも「伊豆」出身と

言う方が、皆興味を持って
くれます。出先で会った人
と伊豆の話で盛り上がり、
時には連絡先を交換したり
すると、とても楽しく充実
した旅行だったと感じられ
ます。変化に富んだ景色、
新鮮な魚、温暖な気候に豊
かな自然と温泉、3年を重
ね、訪れた場所が増える度
に、改めて伊豆は恵まれた
場所だと実感しています。
今でも趣味の観劇やコン
サートなどで、休みの日に
は良く出かけています。ネ
ズミほどはフットワーク軽
く走り回れることはできま
せんが、これから出会う人達
に、少しでも伊豆の魅力を
伝えていければ良いと思
います。